

## 教材教科研究会

### — 部署の垣根をこえて —

研修支援部

#### 1 はじめに

教材教科研究会を年に2回実施するようになって3年目になる。当校は5部署に分かれており、各部署とも1つの教科に対して複数の教員が担当することはほとんどない。同じ教科の教員同士で相談できる場所は限られ、各々で試行錯誤を繰り返さなければならない。

「他の部署では、どんな授業をしているのか」「もっと良い教材はないか」といった要望に応えるためにこの研究会が設定された。各教科における実践事例や教材の紹介、ICT機器の活用、外部講習の伝達等により、子どもの実態に応じた授業力の向上をめざすことを目的としている。

小・中学校に準ずる教育を行う支援学校として、学習指導要領に則った教科教育の充実を図るために、部署横断的に教科会を実施することは重要である。また府教育センターの研修はもちろん、豊中市と枚方市の教育委員会にも協力をいただき、学習指導に関する研修会に積極的に参加し、本校の教育活動に役立てている。

本稿では、今年度の教材教科研究会の取組みについて報告する。

#### 2 概要

	第1回	第2回
前回からの改善点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オンライン開催から集合開催に</li> <li>・話し合う内容例の精選</li> <li>・対象教科を拡大</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間を60分から75分に拡大</li> <li>・各教科の内容の一覧表を実施要項に掲載</li> </ul>
日時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月21日（金）3部制各60分</li> <li>第1部 13時00分から14時00分</li> <li>第2部 14時10分から15時10分</li> <li>第3部 15時20分から16時20分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・12月25日（月）2部制各75分</li> <li>第1部 11時15分から12時30分</li> <li>第2部 13時30分から14時45分</li> </ul>
参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当学部及び教科への参加が基本</li> <li>・他のグループへの参加も可能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当学部及び教科への参加が基本</li> <li>・他のグループへの参加も可能</li> </ul>
内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材紹介</li> <li>・困りごとや相談したいこと</li> <li>・その他 (メンバーの話し合いにより決定)</li> <li>・参考として昨年度の内容を提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に各教科のチーフから集約し実施要項に掲載（次項参照）</li> </ul>

## II 校内研修

### 3 教材教科研究会で話し合われた内容

	第1回	第2回
小学部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の自主学習グループ「スイガク」の活動より、小4算数「帯分数から仮分数への変換」の様々な教え方について</li> <li>・教材紹介</li> <li>・フライングプラネタリウムの各部署での反応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム「わになるです」によるグルーピング</li> <li>・グループ内で「ルーレットトーク」による「授業・教材」に関するお題についての話し合い</li> </ul>
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材の交流</li> <li>・新転任の先生の悩みの共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達性ディスレクシアの理解と支援について</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材紹介とその活用方法について</li> <li>・児童生徒情報の共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業指導案について</li> </ul>
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分教室の現状報告</li> <li>・教材紹介と模擬授業</li> <li>・数学科研究授業の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初めて出会う生徒へのアセスメントの方法について</li> <li>・研究授業の報告、研究協議</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材紹介</li> <li>・複式授業の組み立て方について</li> <li>・生き物の単元の実践報告</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の報告、研究協議</li> </ul>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材紹介</li> <li>・困りごとや相談したいこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おすすめの動画教材紹介</li> <li>・困りごとや相談したいこと</li> <li>・研究授業の研究協議</li> </ul>
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材紹介</li> <li>・各部署の実践や現状について</li> <li>・展示に関する打ち合わせ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分教室ごとの制作物の画像の紹介</li> <li>・教材教具や授業の様子などの情報共有</li> </ul>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各分教室の実践や現状について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育科研究授業の報告、研究協議</li> </ul>
技術・家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術分野研究授業の確認</li> <li>・各分教室の実践や現状について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の振り返り</li> <li>・指導単元の確認</li> </ul>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T-NETの実践交流</li> <li>・言語活動に関する実践交流</li> <li>・困りごとの共有</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・T-NETの取組みについて</li> <li>・教育課程について</li> <li>・ICT機器の活用</li> </ul>

## II 校内研修

### 4 アンケート集計結果と分析

	第 1 回				第 2 回				
回答人数	32				34				
選択肢	非常に そう思う	そう思う	どちら でもない	そう 思わない	非常に そう思う	そう思う	どちら でもない	そう 思わない	全く 思わない
日程は 適切か	11	19	2	0	8	19	5	1	1
集合開催は 適切か	17	12	2	1	13	16	3	0	2
内容は 適切か	13	16	3	0	10	16	6	2	0

第 1 回では、どの項目についても適切であるという意見が多かった。集合開催について、「オンラインでも十分可能である」という意見が 1 名あった。その他の意見として、「内容の一覧があった方がいい」「時間が短かった」という意見があったので、第 2 回へ反映させた。

第 2 回では、適切でないという意見が各項目で複数あった。日程については、「休憩時間が守られていなかった」「時間が長かった」という意見であった。休憩時間については管理職に変更依頼を忘れていたことや、実施要項に書いていた時間設定が周知されていなかったためだと考える。集合開催については、「オンライン開催でできると思う」「教科の人数等で開催するかしないかを教科が判断した方がいい」という意見があった。オンラインについては前回と同様 1 名の意見であった。また、今年度 1 つの教科で 2 名の教員が同部署ということがあり、その教科からの意見であった。その他「教科の順番をローテーションにしてほしい」という意見があった。

集合開催については、ほとんどの教員が「適切である」という結果から、感染症拡大防止対策等にならない限り今後も続けていきたい。教科によって人数が少ない場合についての開催については、全教科開催するという前提であるが、今年度のような特別な場合については、事前に検討するべきであるとする。教科の順番についても、これまでの順番を考慮して調整しているが、公平性を保てるように次年度へ引き継ぎたい。

### 5 まとめ

今年度の話し合う内容については、「教材紹介・困りごとや相談したいこと・その他（メンバーの話し合いにより決定）」と提示したが、3 年目ともなれば「3 教科教科研究会で話し合われた内容」を見ても分かるように、各教科のチーフが中心となり、メンバーで話し合っただけの内容を検討し、実施できるようになってきている。今年度は校内で研究授業も積極的に実施されたため、研究協議についてもこの研究会が役に立った。また、SSC のパソコンとスクリーンやモニターの使用については、情報支援部の協力も大きかった。

アンケート結果からいくつかの課題があるが、子どもの実態に応じた授業力向上のために、今後はそれぞれの教科で、チーフを中心に主体的にこの研究会を計画実施していけるよう、研修支援部としてサポートしていきたい。